

数字で見る震災時の泉区

泉区の被害想定 (元禄型関東地震と同規模の地震が起きた場合)

震災による影響を知ることは、減災行動を考える上で重要です。横浜市で最も人的・物的被害が大きいとされる元禄型関東地震の被害想定を確認し、いつ起きるかわからない大地震に備えましょう。

強い揺れによる 建物全半壊棟数 6,239棟	建物倒壊による 死者数 45人	火災による 建物焼失棟数 3,339棟	火災による 死者数 55人
避難者数 22,455人	上水道の 断水世帯数 11,839世帯	電力停電世帯数 9,608世帯	都市ガス 供給停止件数 36,064件

基礎データ

区の世帯数と人口

64,254世帯
150,646人

※人口は令和6年2月1日現在

区役所の職員数

約450人

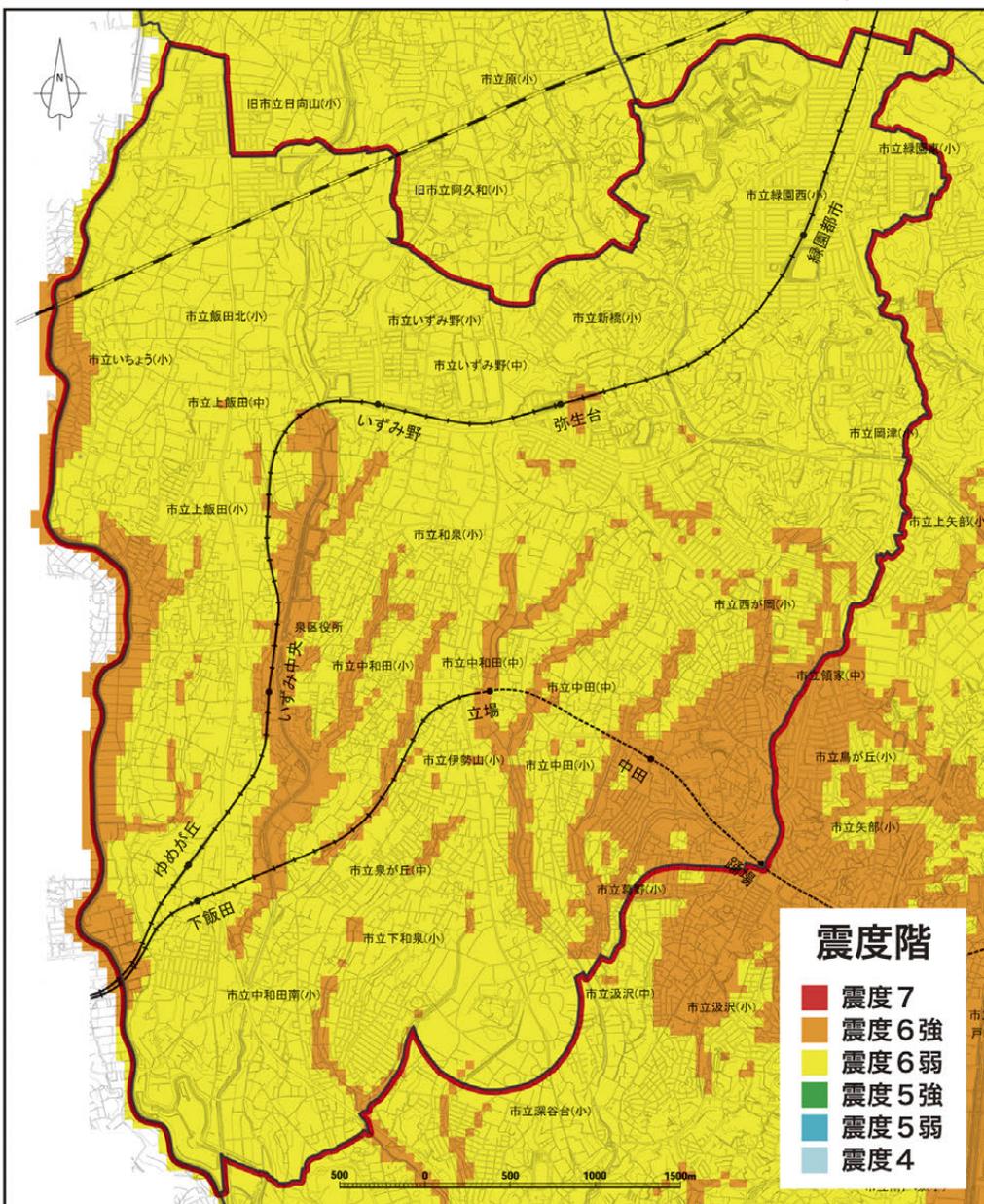
地域防災拠点の数

23か所

※県立横浜ひなたやま支援学校を含む

出典：横浜市地震被害想定調査報告書（平成24年10月）

横浜市 地震被害想定 検索



震度階

- 震度7
- 震度6強
- 震度6弱
- 震度5強
- 震度5弱
- 震度4

横浜市消防局 平成24年10月作成：横浜市地震被害想定調査に基づいて、市内における50mメッシュごとの震度階評価を行いました。

1 避難所あたりの備蓄食数

飲料水	
2,000缶	水 水 水
クラッカー	
1,000食	
保存パン	
1,000食	
おかゆ	
460食	
スープ	
220食	

区内の消防署（出張所）の数

消防署	
1 箇所	
出張所	
4 箇所	

区内の消防車（ポンプ車）の数

9台

区内の消防団積載車数

20台

区内の救急車の数

4台

地震に備えて確認しておくこと

生活・防災マップ地図面で場所を確認しよう

1 広域避難場所

地震による延焼火災の輻射熱や煙から市民の生命・身体を守るために避難する場所です。

2 地域防災拠点

自宅で生活できない方が一時的に避難生活を送るための場所で、最低限の食料・水・生活資機材等を備蓄しています。

3 災害時給水所

災害時に飲み水を得られるように、小・中学校や公園に災害時給水所を設置しています。



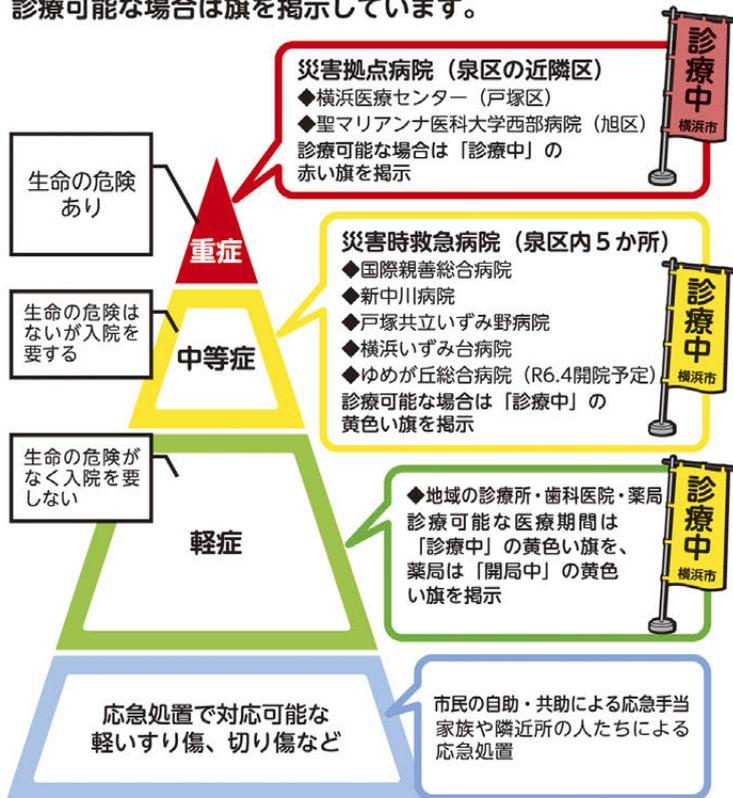
泉区災害時給水マップ

4 近くの医療機関

ひとりでも多くの命を救うため災害時は緊急度・重症度に応じた医療機関を受診しましょう。

負傷者等の搬送については、地域の皆様の御協力をお願いします。

診療可能な場合は旗を掲示しています。



常用薬は1週間多めに用意

持病等により常用薬を服用している方は、おくすり手帳を日頃から携帯するなど活用しましょう。また、常用薬は、1週間分くらい余裕を持たせて保管しておく安心です。

お住まいの地域にある医療機関を確認しておきましょう
 いざという時のために、お住まいの地域にある医療機関の場所を確認しておきましょう。病院・診療所一覧は横浜市のホームページで確認できます。

災害時の医療提供体制・病院一覧



震災に備えた家庭の備蓄

備蓄品

- 飲料水…1人1日3リットル
- 食料品…日頃から食べられたもので常温保存ができるものを中心に備蓄しましょう。

目標は**1週間分!**
 最低でも**3日分**の備蓄をしましょう。



- その他
 絆創膏、包帯、ティッシュ、ウェットティッシュ、液体歯磨き、からだ拭きウェットタオル、紙皿・紙コップ、カセットコンロ、カセットボンベ、クーラーボックス、保冷剤、ポリタンク（給水用）、ラップ、ヘルメット、軍手、底の厚い靴、メガネ、コンタクトレンズなど



トイレが使えないときのために!

- トイレパック（目安：1人1日5回分）
- トイレトッパー



あわせて備えておきたいトイレグッズ

除菌ウェットティッシュ、消臭スプレー、おしりふき、石鹸、消毒液、バケツ



非常持出品（袋に入れておく）

- 照明器具
 懐中電灯、LEDランタン
 ※予備電池も用意しましょう。
- 情報収集用品
 携帯ラジオ
 ※予備電池も用意しましょう。
- 貴重品
 現金、預貯金通帳、身分証明書など
- 医薬品
 常用薬、おくすり手帳など
- 衛生用品
 歯磨きシート、生理用品、マスク、消毒液など
- 生活用品（その他）
 携帯電話、スマートフォン、モバイルバッテリー、ポータブル電源、ポリ袋、タオル、衣類など
- その他各家庭の状況に応じて必要なもの
- 飲料水（少量でも）
- 食料（加熱不要）



地震が起きたら…

危険の少ない場所で落下物などから身を守る姿勢をとります

基本ポーズ

①クッションやカバンなどで頭を保護する

③手首は頭の横に固定する



だんごむしのポーズ

体で最も大切な頭を守るための「だんごむしのポーズ」。大人も子どもも、このポーズを覚えましょう。



赤ちゃんを守るポーズ

子どもと自分の頭を守るポーズ。大人のお腹のあたりに赤ちゃんの頭を置いて、お尻を抱きかかえるように体を丸めましょう。



1 揺れが収まったらまず火元確認・初期消火

①119番通報及び初期消火
出火したら、大きな声や音で周りの人に知らせ、みんなで協力しあって通報及び初期消火に努めましょう。



②身の危険を感じたら、すぐに避難
避難の際は、空気を断つためにドアを閉められる場合は閉めましょう。



2 家の外に出て自宅建物や周囲の状況を確認

その場にとどまると危険な場合

いっとき避難場所

近所の公園や空き地など、危険が少なく一時的に避難できる場所を「いっとき避難場所」としてあらかじめ決めておきましょう。町の防災組織(自治会町内会等)で「いっとき避難場所」を任意に指定している場合があります。



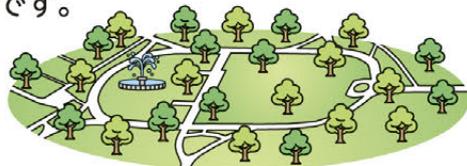
避難時の心得

- 火の元の確認
- ブレーカーを落とす
- 安否確認カードを貼る

周囲で広範囲に火災が発生している場合

広域避難場所(深谷通信所跡地など)

広範囲に火災が発生し、その場にとどまると火災の放射熱・煙により危険がある場合に避難する場所です。



火災の危険がなくなる

3 安全を確保できたら、家に被害があるか確認

被害があり生活できない

地域防災拠点へ避難

市内1か所以上で震度5強以上の地震を観測した場合に開設します。火災や建物倒壊などにより、自宅での生活が困難な場合は地域防災拠点で避難生活を送ります。



被害がない

自宅に戻って在宅避難

自宅建物に火災や倒壊の危険がないときには、避難所に行く必要はありません。自宅で避難できるような備えをしましょう。



